

# 第 10 回防災まちづくり大賞について

(財) 消防科学総合センター

小 松 幸 夫

## 1. はじめに

総務省消防庁及び(財)消防科学総合センター、(財)日本消防設備安全センターでは、平成 17 年度に「第 10 回防災まちづくり大賞」を実施しました(平成 8 年度から毎年実施)。

本事業では、地方公共団体や自主防災組織等における防災に関する様々な取り組みについて応募いただき、学識経験者、関係団体、関係行政機関の職員等で構成される「防災まちづくり大賞選定委員会」(委員長:澤井安勇(総合研究開発機構理事))において審査、選定を行い、特に優れた活動について「防災まちづくり大賞」を贈呈しました。本稿は、その審査結果と受賞事例をまとめたものです。なお、同大賞の表彰式は平成 18 年 3 月 23 日に行われ、関係団体にそれぞれ大賞が贈られました。

## 2. 応募内容

以下のような対象及び内容により、防災に関する様々な取り組みについて応募いただきました。

### (1) 対象

都道府県、市町村(一部事務組合を含む)、消防団、自主防災組織(町内会・自治会を含む)、婦人防火クラブ、少年・幼年消防クラブ、事業所、ボランティア団体、NPO 団体、大学などの教育機関、まちづくり協議会など

### (2) 内容

#### ①一般部門

防災関係の施設整備、地域における自主防災活動、教育訓練及び講座・研修などソフト、ハード面を中心とする「防災まちづくり」に関する取組。

#### ②防災情報部門

防災に関する普及啓発・広報などの活動や災害・防災情報の収集・伝達体制の整備などの「防

災情報」に関する取組。

### ③住宅防火部門

地域における住宅防火対策を推進する取組。

## 3. 第10回防災まちづくり大賞の表彰の種類

表彰は、総務大臣賞、消防庁長官賞、消防科学総合センター理事長賞(一般部門と防災情報部門のみ)、日本消防設備安全センター理事長賞(住宅防火部門のみ)の4つになります。

## 4. 第10回防災まちづくり大賞の結果と受賞事例の概要

各都道府県からの推薦及び一般からの自薦により収集された136件に及ぶ事例について、防災まちづくり大賞選定委員会において審査・選考を行い、第10回防災まちづくり大賞の受賞21団体が決定しました。以下に受賞団体と概要を紹介します。

### (1) 一般部門

#### <総務大臣賞>

事例名	学生災害救援ボランティア隊
団体名	特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会（東京都世田谷区）

国際協力・環境保護・社会福祉・災害救援の4つの部門を中心に、学生を集めて活動しています。平常時は研修において避難所運営や集団行動のロールプレイング、応急救命法や止血法・三角巾の使い方の習得を行っています。災害時は、本部を立ち上げ、会員内から参加者を募集し、スコップや一輪車、炊き出し道具、食料、テントといったものを準備しています。また、移動中に、災害の発生状況から実際の作業形態に関するオリエ



写真1 平成16年新潟豪雨において床下のヘッドロを吐き出す様子

ンテーションを行い、現地での活動を行っています。これまで、北海道南西沖地震災害救援隊以降、平成17年夏まで4ヶ国27地域39回、延べ参加者人数1,089人の救援活動を行いました。

事例名	-防災の輪広げるコツー「楽しく防災活動をやろう」
団体名	加古川グリーンシティ防災会（兵庫県加古川市）

阪神・淡路大震災以降、多彩なアイデアを出し合いながら「マンションの災害対策」に取り組んでいます。全ての人に防災意識を持ってもらうため、広報誌の作成、ホームページの運営、携帯等を用いた緊急情報伝達システムの構築、テレビの空きチャンネルを利用したコミュニティ放送の運営、災害発生時の行動指針を示した小冊子「命のライセンス」の作成等を行っ



写真2 炊き出し訓練

てきました。また、「助けることができる人」・「助けてもらいたい人」の登録制度、「子どもたちの合同の町内夜回り」、世代間交流を目的とした「もちつき大会」等すべての世代が防災活動に参加できる行事を実践しています。

#### <消防庁長官賞>

事例名	市民団体による自主防災リーダーの育成
団体名	国分寺市民防災推進委員会（東京都国分寺市）

国分寺市が毎年開校する「市民防災まちづくり学校」の修了者の中から構成されており、昭和59年6月2日から約150名で活動がスタートしました。市内全域に散らばる592人の推進委員の交流を図り、情報を共有化することを目的に、毎年「市民防災推進委員のつどい」を開催しています。また、毎年、防災講演会や防災関係施設及び他のまちづくり地域などの見学会を行っており、推進委員の防災知識を高め、地域でのまちづくり活動に生かしています。

この他、年1回推進委員会主催の防災訓練「市民防災ひろば」を開催したり、年2回市民向けに情報誌を発行しています。また、市総合防災訓練へ参加し、家具固定方法の実演などに関する普及啓発活動を行っています。

事例名	「震災復興まちづくり模擬訓練」の手法開発とその実践活動
団体名	首都大学東京・事前復興計画研究会（東京都八王子市）

2002年から、練馬区貫井地区で「震災復興まちづくり模擬訓練」を行うことになり、その手法開発に取り組みました。主に4回のワークショップ、①地域の課題を考える、②避難所から復興の課題を考える、③地域での仮設居住(時限的市街地)を考える、④街の復興まちづくり計画を考えてみる、を軸に、町歩き・仮設住宅の模型による時限的市街地づくりデザインゲーム・地図上シミュレーションなどの手法と活用法を開発しました。これをきっかけに、東京都の補助事業が創設された他、新小岩地区でも同様の模擬訓練を実施しています。

また、訓練のみならず、震災後の復興まちづくりの支援に向けて、関係機関・団体のネットワーク化を呼び掛けています。

事例名	トリアージ訓練を通じ、静岡市の住民が災害時医療を理解し担うことを目指す
団体名	静岡地区災害時医療対策連絡会（静岡県静岡市）

平成13年より、全ての医療機関、消防などによって結成され、「トリアージ訓練」を町内会に呼びかけ、手を上げた町内で各医療機関との連携訓練を行っています。訓練では、住民が扮する模擬患者を地域で開業している医師会員がトリアージし、トリアージの具体的な解説と災害時の医療について説明する形とし、救護所の立ち上げ訓練、図上訓練、患者搬送訓練なども進めてきました。また、平成17年度からは、クラッシュ症候群に対する啓発を行う他、中学生に訓練への参加を呼びかけています。その結果、平成17年で、旧静岡市の約50連合町内のうち、15町内の訓練を終える予定で、5,000人が参加しています。

#### <消防科学総合センター理事長賞>

事例名	厳冬の災害に備えて ～冬季防災訓練～
団体名	ひまわり連合自治会防災会（北海道札幌市）

平成12年より、個々の住民や自主防災組織が災害対応能力向上を目的に、過酷な環境を想定した宿泊訓練を実施しています。この他、図上訓練や普通救命講習などの活動も行っています。

事例名	地域と事業所が連携した地域防災活動
団体名	大日精化工業株式会社 東京製造事業所（東京都足立区）

昭和 35 年から事業所内の自衛消防組織を結成し、自社周辺区域の災害時には、自社敷地内にある防火水槽や屋内消火栓等を活用して自衛消防隊を出場することとしています。また、事業所レスキュー隊を発足し、さらなる活動を展開しています。

事例名	地域ぐるみの防災行動力の向上を目的とした防災訓練等の実施
団体名	天沼地区町会連合会（東京都杉並区）

天沼地区の 8 町会が一体となり、昭和 52 年から防災訓練を行う他、行政機関へ様々な提言を行っています。また、震災時の避難場所となる震災救援所の運営連絡会を立ち上げ、他団体とのネットワークを確立しています。

事例名	モデルルームを活用した家具類の転倒・落下防止対策の推進
団体名	白鬚東地区自治会連合会（東京都墨田区）

モデルルームを活用して、地震時における室内の状況や家具転倒防止に関する機器を展示するキャンペーンを実施しました。その結果、自治会独自の助成金制度や災害弱者サポート隊による器具の取り付け等を行っています。

事例名	高齢化社会を先取りし、高齢者自らが防災グループを作り、安全安心な町づくりを推進
団体名	春日台シルバー消防隊（神奈川県愛川町）

平成 7 年に高齢者の方によるシルバー消防隊が結成され、防災講演会での活動発表、自治会の防災訓練における指導、応急手当の普及啓発、夜回りや防犯パトロールなど多岐にわたる活動を行っています。

事例名	「温泉観光地区として、安心・安全の提供という地域貢献」 ～救急ステーション制度の推進～
団体名	湯本温泉旅館協同組合（山口県長門市）

温泉旅館を中心に、事業所関係者が救命講習を受講し、関連の資機材を保有している事業所について救急ステーションとして認定しています(12 事業所)。この他、郵便局員が応急救護活動を

行うポストメディック制度も行っています。

事例名	若い力で地域防災に取り組む「高校生防災お助け隊」の活動
団体名	高校生防災お助け隊（愛知県名古屋市）

名古屋市消防局が行った防災講座を受講した市内7校の高校生20名を中心に、自主的な防災活動グループとして結成され、他の高校生に対する防災講座や稲むらの火の人形劇の開催など、趣向を凝らした啓発・普及活動を行っています。

事例名	南海地震に負けへんぞ！ -住民と行政による協働の防災まちづくり-
団体名	由岐町（徳島県）

町職員で構成される防災対策チームを結成し、地域の自主防災活動のバックアップを行っており、津波避難マップの作成、避難誘導看板の設置、家具の転倒防止プロジェクトなど、様々な対策を自主防災組織とともに展開しています。

## (2) 防災情報部門

### (2) 防災情報部門

#### <総務大臣賞>

事例名	ラジオ放送活動「17日は節目の日」～いのちを守るラジオ防災！～
団体名	山口放送株式会社 ラジオ朝ワイド「おはようKRY」（山口県）

阪神・淡路大震災発生2日後から、朝ワイド内で呼びかけ、リスナーから寄せられた救援物資を神戸に送り届けたことを契機に、平成7年4月17日から、毎月17日に「阪神・淡路大震災17日は節目の日」を放送しています。内容は、「被災地の取材」と「震災と防災のコラム」を紹介しており、リスナーと双方向で、「被災とは?」「これからの防



写真3 福岡県西方沖地震の際の玄海島の取材

災とは?」を考え、情報交換を行っています。この10年の活動が、山口放送ラジオの「ラジオ災害報道」の基礎づくりとなり、「ラジオ災害報道マニュアル」の見直しを促しました。また、10年目の平成17年は、山口放送本社にて「いのちを守る1 ラジオ防災スペシャル」を開催し、ラジオ公開生放送並びに防災訓練を実施しました。

#### <消防庁長官賞>

事例名	やさしい日本語で伝えたい災害時のわかりやすい情報伝達を目指して ～災害時要支援者を救うためのFMアップルウェーブの取り組み～
団体名	アップルウェーブ株式会社（青森県弘前市）

平成14年4月に弘前大学、弘前市役所、キャストなどで構成される減災のための「やさしい日本語」研究会を立ち上げ、災害時の必要な情報をわかりやすく伝える方法を研究してきました。検証の結果「やさしい日本語」は災害時でも極めて有効な情報伝達手段であることが実証され、日常から行われるべきとの観点から、「やさしい日本語」を用いた番組『やさしい日本語で伝えたい暮らしの情報ランド』を平成17年1月から毎日放送しています。その他、無停電電源装置や緊急割り込み放送設備の設置、消防署との自動発信ホットラインの確保の整備、危機管理マニュアルや緊急時スタッフシフト表の整備の他、防災に関する啓発番組や特別番組の放送などを行っています。

#### <消防科学総合センター理事長賞>

事例名	地域に学び発信する地震防災情報 ～防災取材委員会の活動～
団体名	神奈川県立西湘高等学校（神奈川県小田原市）

新聞委員会防災取材班が調査取材し、地震時のマニュアルの作成、生徒による理想的な防災訓練の検証、学校周辺の防災マップの作成、委員会広報誌の発行など、Web ページに公開しています。

事例名	消防団員手作り、わが地域の防災意識の高揚「警鐘新聞」の作成
団体名	大月市消防団（第二分団第一部）（山梨県大月市）

昭和57年から、消防団が地域住民の防災啓発を目的として、手作りで新聞を作成し、部員たちが法被姿で火災予防を呼びかけながら区域内全世帯に配布しています。作成経費は、夜警巡回費用や消防団費用の一部を使っています。

事例名	人形劇プロジェクト 稲むらの火
団体名	特定非営利活動法人 人形劇プロジェクト稲むらの火（静岡県富士宮市）

防災教育の名作「稲むらの火」等の人形劇などを通じて、子供から大人まで幅広い年齢層における防災意識の向上に大きく貢献しています。紙芝居や絵本まで広げ、こどもの心に防災意識が根付く形での展開を目指しています。

### (3) 住宅防火部門

#### <総務大臣賞>

事例名	バザー収益金で高齢者等の世帯に住宅用火災警報器を配付
団体名	荒川防火防災女性部（東京都荒川区）

荒川消防署が春の火災予防運動行事の一環として実施した火災予防フェスティバルの中で、火災予防チャリティーバザーを実施しました（平成13年3月が初めて4回実施）。バザー用品の収集は、会員、町会、事業所、消防署員等に依頼し収集した、衣類、日用雑貨品等を中心に毎年約700から1,000点が集まり、その分類作業、値段付け作業を当該女性部の会員で行って



写真4 バザー会場の様子

ます。その結果、4回の収益金で合計615個の住宅用火災警報器を購入し、一人暮らし高齢者や身体の不自由な方など災害時要援護者の家庭に配布しました。また、火災予防フェスティバルでは、地域住民を対象とした防災クイズや住宅用火災警報器の展示など、住宅防火に関する普及・啓発を行っています。

#### <消防庁長官賞>

事 例 名	「ぞうさんのみずでっぼう」劇団の広報活動
団 体 名	北九州市小倉南消防団（女性消防団員）（福岡県北九州市）

昭和 63 年 10 月、北九州市に女性消防団員が採用され、予防広報を中心とした団員活動を行っています。平成 3 年には人形劇団「ぞうさんのみずでっぼう」を旗揚げし、小倉南区の幼稚園・保育園・各種イベント行事で幼少年を対象に人形劇を実施しています。劇で使う小道具はすべて手作りで、演じる内容は高齢者の防火訪問や救急活動を題材にしたものなど多岐にわたっています。年間公演回数は 10 回を超え、公演内容は新聞等で紹介され、県外から出演を依頼されるなど好評を博しています。

#### <日本消防設備安全センター理事長賞>

事 例 名	住宅用火災警報器の設置促進
団 体 名	本羽田二丁目町会（東京都大田区）

住宅用火災警報器の設置について理解を深めた結果、低価格で一括に購入し、90 世帯 181 個の設置に至りました。また、要介護者宅の点検・電池交換等を町会員で維持管理するネットワークを構築しています。

#### 5. おわりに

今回の第 10 回防災まちづくり大賞の応募に際し、各都道府県及び市町村、その他関係団体の方々には、ご多忙中のところ大変なご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。